


(参考) 茶わん1杯のお米の値段

○ ご飯は経済的な食べ物


● 茶わん1杯のご飯を炊く前のお米(精米)の重さは **65g** くらいです。5kgの精米は約77杯になりますので、1,897円(小売価格の平均)のお米を買ってごはんを炊いた場合、1杯当たりのお米の値段は **約25円** となります。*



※ 茶わん1杯のご飯は、精米65g使用、5kg当たり1,897円(POSデータによるコメの平均小売価格(平成28年1月))で算出。




=



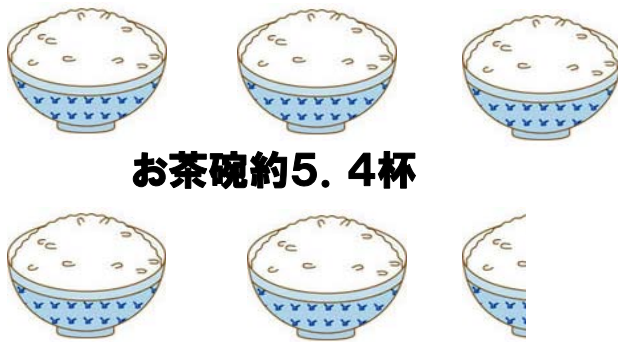
お茶碗約4杯

ミネラルウォーター(2リットル)97円



コーヒー

=



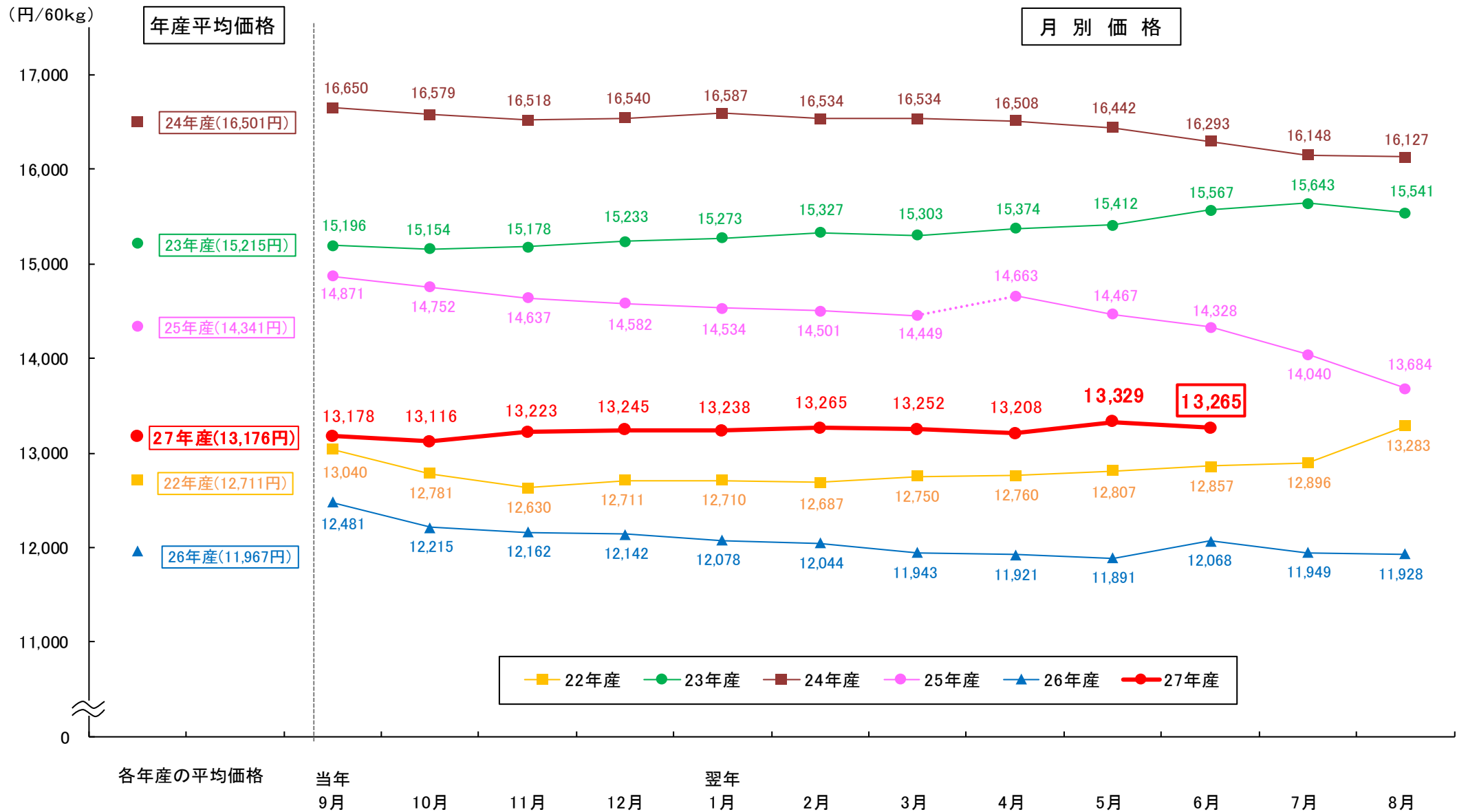
お茶碗約5.4杯

缶コーヒー 130円

出展：ミネラルウォーターは、総務省「小売物価統計調査(主要品目の東京都区部小売価格)26年平均価格」
缶コーヒーは、街中の自動販売機等で販売されている一般的な価格

11 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成22年産～27年産)

相対取引価格の推移(税込)



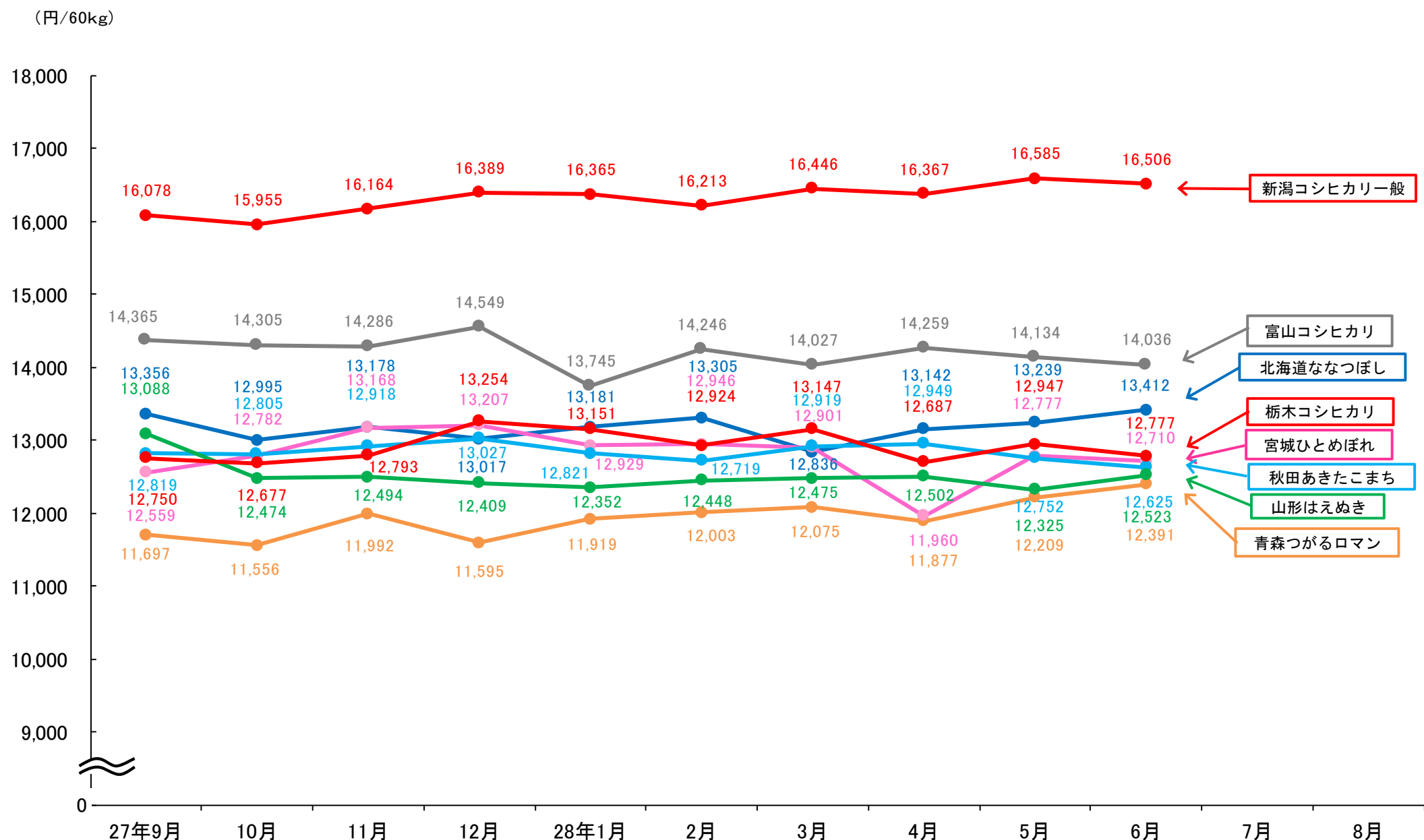
資料：農林水産省調べ

注1：価格には、運賃、包装代、消費税相当額(5%)。ただし、25年産の26年4月分以降は8%が含まれている。

注2：グラフの左側は各年産の平均価格(注3)、それ以降は月ごとの価格の推移。

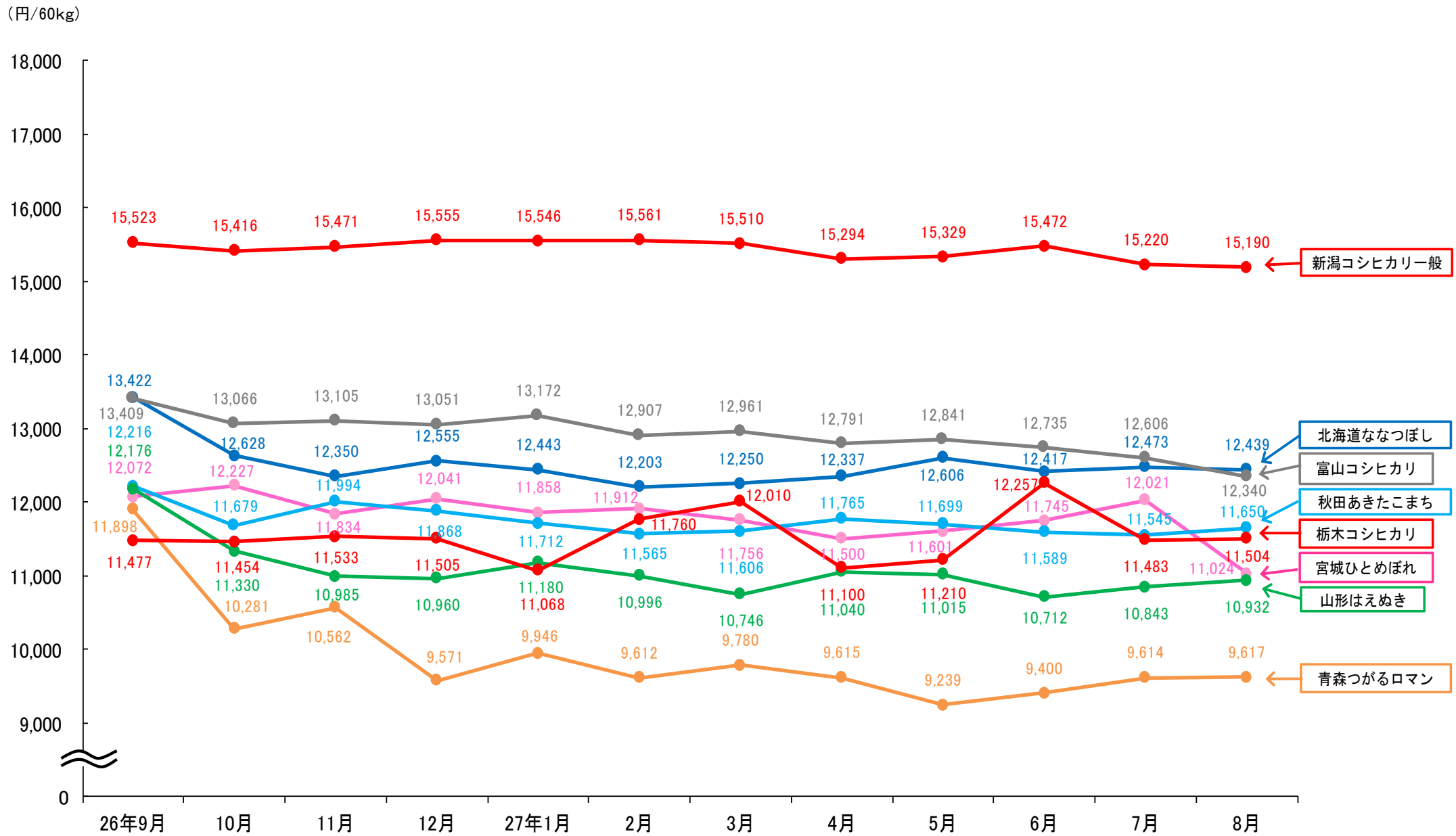
注3：平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月(27年産は翌年6月)までの通年平均である(27年産は速報値ベース)。

12 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成27年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注：価格には、運賃、包装代、消費税が含まれている。

13 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成26年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注：価格には、運賃、包装代、消費税が含まれている。

14 業者間取引価格（27年産米・28年7月12日時点）

単位：円/玄米60kg、包装代込み、税込み

産地品種銘柄	27年産 (28年7月12日時点) ①	26年産 (27年7月14日時点) ②	価格差 (①-②)
北海道ゆめぴりか	17,172	14,580	+ 2,592
北海道ななつぼし	14,688	12,420	+ 2,268
青森つがるロマン	13,500	10,476	+ 3,024
青森まっしぐら	13,068	10,260	+ 2,808
岩手ひとめぼれ	14,256	10,584	+ 3,672
宮城ひとめぼれ	14,688	11,340	+ 3,348
秋田あきたこまち	14,580	11,448	+ 3,132
山形はえぬき	14,148	10,476	+ 3,672
福島会津コシヒカリ	13,500	11,772	+ 1,728
福島中通りコシヒカリ	13,284	11,664	+ 1,620
福島会津ひとめぼれ	13,716	10,368	+ 3,348
福島中通りひとめぼれ	13,500	10,260	+ 3,240

単位：円/玄米60kg、包装代込み、税込み

産地品種銘柄	27年産 (28年7月12日時点) ①	26年産 (27年7月14日時点) ②	価格差 (①-②)
茨城コシヒカリ	13,176	11,664	+ 1,512
茨城あきたこまち	14,040	10,800	+ 3,240
栃木コシヒカリ	13,176	11,664	+ 1,512
栃木あさひの夢	12,852	10,260	+ 2,592
千葉コシヒカリ	13,176	11,664	+ 1,512
千葉ふさおとめ	13,176	10,152	+ 3,024
千葉ふさこがね	13,068	9,936	+ 3,132
新潟魚沼コシヒカリ	19,980	23,760	▲ 3,780
新潟一般コシヒカリ	15,984	15,120	+ 864
新潟こしいぶき	14,580	11,340	+ 3,240
富山コシヒカリ	14,472	14,364	+ 108
石川コシヒカリ	13,824	13,608	+ 216

資料：「米穀市況速報」より（毎週火曜日公表、関東相場、東京着値基準、下限値）。

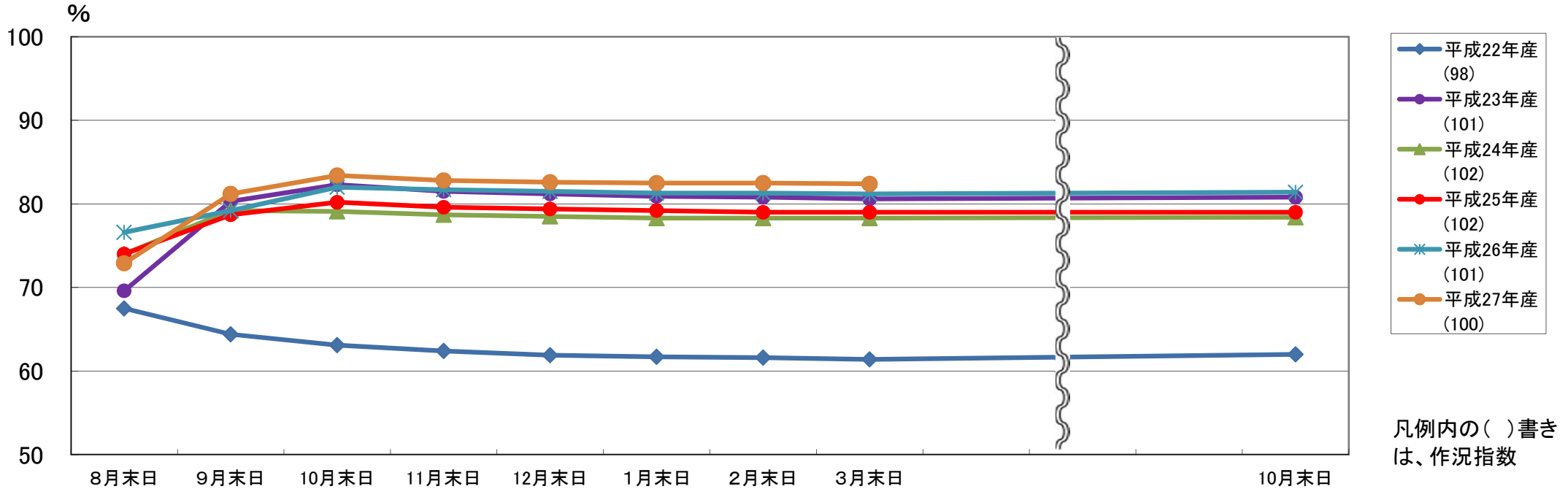
注：27年産は、資料作成時の直近価格として、平成28年7月12日時点の価格を掲載。26年産は、27年産の比較対象として、同時期（1年前時点）の価格を掲載。

15 水稻うるち玄米の1等比率

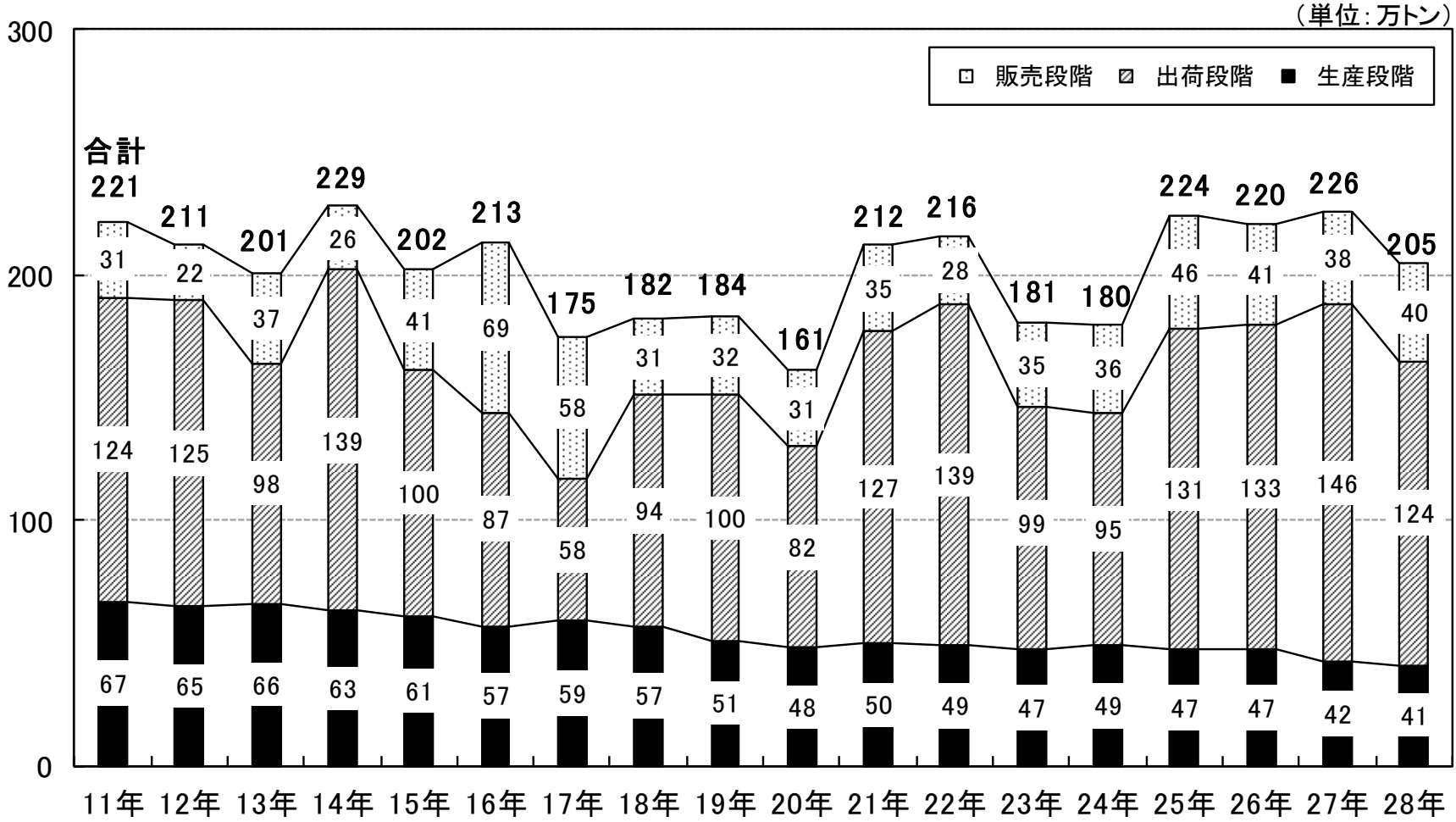
	平成 27 年産	平成 26 年産	平成 25 年産	平成 24 年産	平成 23 年産	平成 22 年産
8 月末日	72.9	76.6	74.0	74.0	69.6	67.5
9 月末日	81.2	79.2	78.7	79.2	80.3	64.4
10 月末日	83.4	82.0	80.2	79.1	82.3	63.1
11 月末日	82.8	81.7	79.6	78.7	81.5	62.4
12 月末日	82.6	81.5	79.4	78.5	81.2	61.9
1 月末日	82.5	81.3	79.2	78.3	80.9	61.7
2 月末日	82.5	81.3	79.0	78.3	80.8	61.6
3 月末日	82.4	81.2	79.0	78.3	80.6	61.4
最終		81.4	79.0	78.4	80.8	62.0

資料：農林水産省とりまとめ。
 注1：「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合。
 注2：「最終」は、翌年10月末現在。

平成27年産と直近5カ年の国内産水稻うるち玄米の1等比率の推移



16 民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

① 16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

② 15年については、

・ 販売段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の旧登録卸売業者と1,000トン以上の旧登録小売業者の数量である。

・ 出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③ 14年以前については推計値であり、

・ 販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

・ 出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

3) 26年の出荷段階の在庫量には、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構の買入数量35万トンを含んでいない。

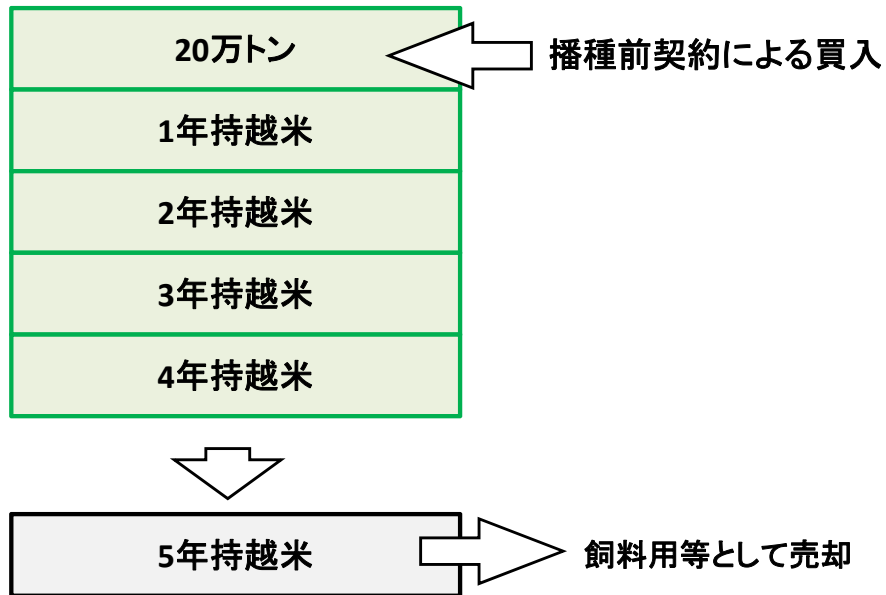
4) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

17 政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用(10年に1度の不作(作況92)や、通常程度の不作(作況94)が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準)。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の売却を行わない棚上備蓄を実施(備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ)。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に20万トン程度買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として売却。

基本的な政府備蓄米の運用

原則20万t×5年→100万t

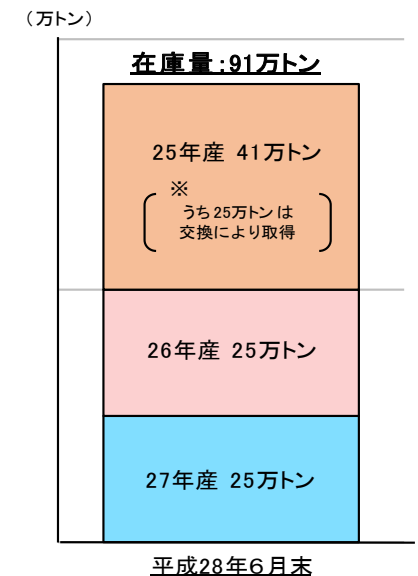


政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

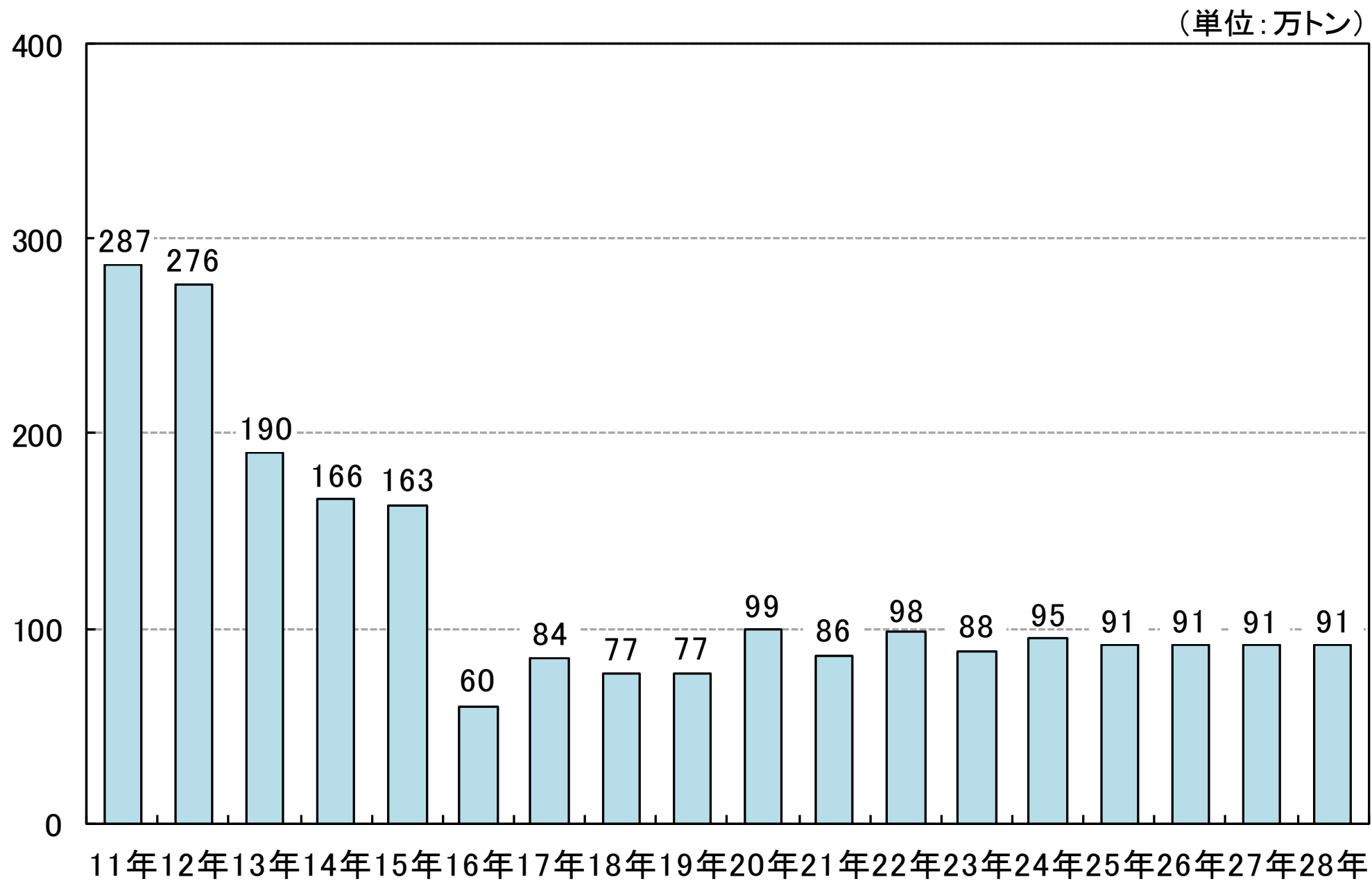
22年産	18万トン
23年産	7万トン
24年産	8万トン
25年産	18万トン
26年産	25万トン
27年産	25万トン
28年産	22.5万トン(予定)
29年産	20万トン(予定)

【現在の備蓄状況】



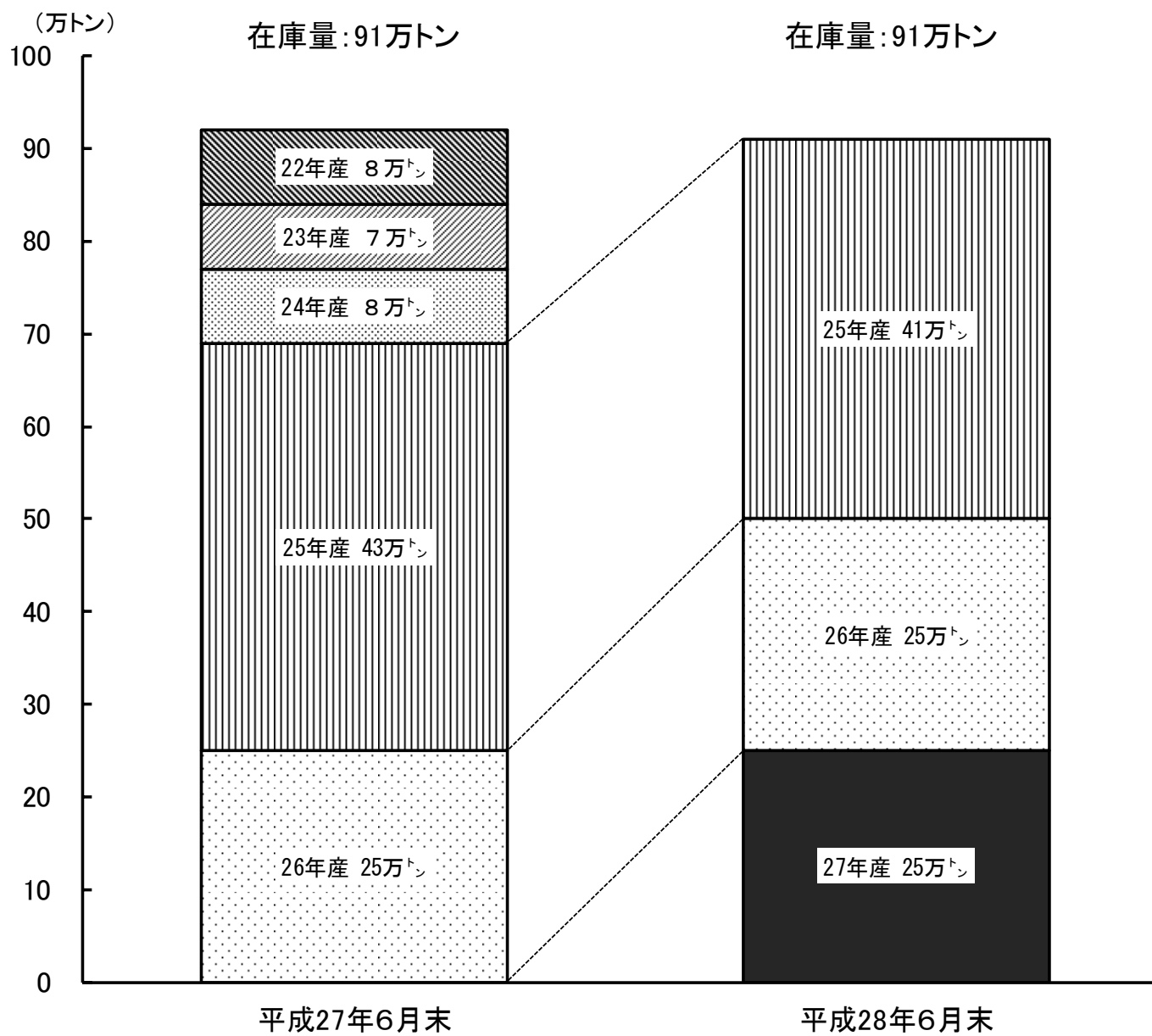
※ 5年を超える古米を多く保有していたことから、26年度において、政府備蓄米と25年産米(25万トン)を交換。

18 政府備蓄米の6月末在庫の推移



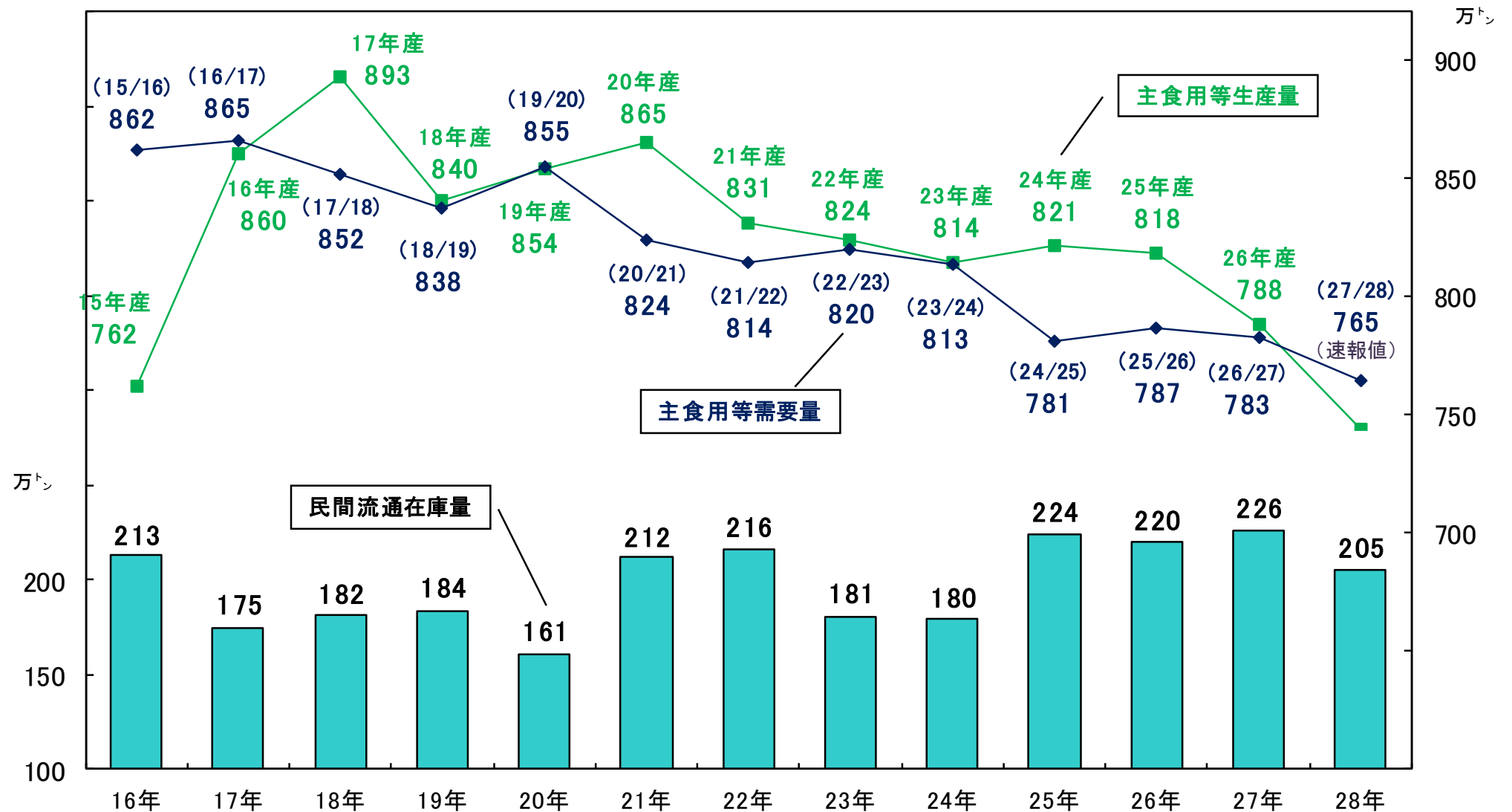
注：国産うるち玄米の数量である。

19 政府備蓄米の在庫の状況



注：国産うるち玄米の数量である。

20 主食用等の生産量と需要量及び民間在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) 主食用等需要量は前年7月から当年6月までの需要実績である。

2) 主食用等生産量（水稻収穫量－（加工用米＋新規需要米（飼料用・バイオ用を除く）＋備蓄米）は、前年産の数値である。

3) 民間流通在庫量は当年6月末現在の数値である。

21 28年産米の政府備蓄米の買入

単位:トン

買入対象米穀の産地		第1回 (1月29日)	第2回 (2月10日)	第3回 (2月23日)	第4回 (3月8日)	28年産 落札 合計数量
都道府県別優先枠	買入予定数量	落札数量	落札数量	落札数量	落札数量	
北海道	11,757	0	11,757	0		11,757
青森	17,177	17,177	0	0		17,177
岩手	7,200	7,200	0	0		7,200
宮城	9,900	368	9,532	0		9,900
秋田	21,343	21,343	0	0		21,343
山形	12,707	12,707	0	0		12,707
福島	20,000	19,459	541	0		20,000
茨城	990	229	761	0		990
栃木	7,470	2,817	3,954	0		6,771
群馬	10	10	0	0		10
埼玉	432	432	0	0		432
千葉	1,100	1,100	0	0		1,100
新潟	22,133	22,133	0	0		22,133
富山	9,822	9,822	0	0		9,822
石川	3,970	30	3,940	0		3,970
福井	1,985	160	1,825	0		1,985
長野	655	655	0	0		655
岐阜	495	10	485	0		495
静岡	33	0	33	0		33
愛知	724	0	723	0		723
三重	542	542	0	0		542
滋賀	1,099	123	976	0		1,099
兵庫	217	30	0	0		30
鳥取	883	10	873	0		883
島根	71	71	0	0		71
岡山	2,133	2,133	0	0		2,133
広島	201	0	0	0		0
山口	227	0	0	0		0
徳島	555	10	488	57		555
愛媛	241	10	57	12		79
高知	15	0	0	15		15
福岡	219	10	209	0		219
佐賀	539	0	539	0		539
長崎	30	0	30	0		30
熊本	408	0	61	347		408
大分	220	220	0	0		220
計	157,500	118,811	36,784	431		156,026
指定なし(一般枠)	67,500	67,500	0	0	1,474	68,974
合計	225,000	186,311	36,784	431	1,474	225,000

注) 都道府県優先枠は、第3回までの入札とし、落札残については、第4回に指定なしとして入札している。

22 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討

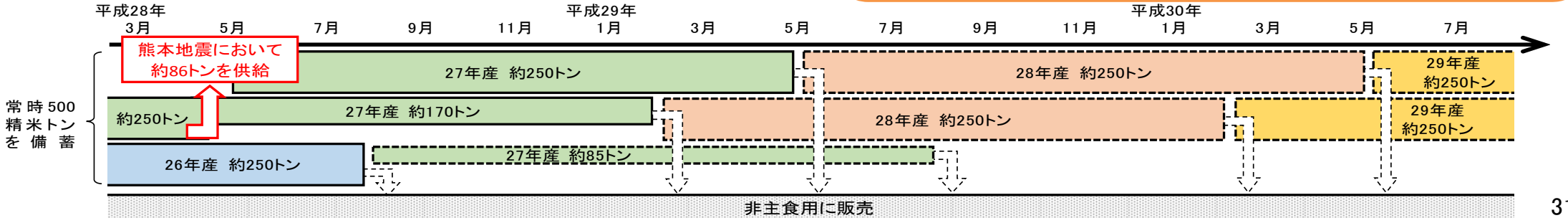
精米備蓄事業【28予算:27百万】

- 《背景》
- 東日本大震災発生後に、被災地から応急食料としての精米の供給要請
 - 大消費地である首都圏において一時的に米の品薄状態が発生
- 《課題》
- 大規模災害への備えとして、一定量の精米のストックが必要
 - 大規模災害発生直後に大都市圏で発生が想定される需要増加・精米供給能力の低下に対応する体制の確保が必要

- 《具体的な実施スキーム》
- 平成24年度から、政府が買い入れる備蓄米の一部を活用して精米(無洗米)形態での備蓄を実施。
 - 備蓄量：500トン(東日本大震災発生～4月20日までの被災地向け精米供給量に相当)
 - 実施主体：政府所有米穀の販売等業務の委託を受けた民間団体等
 - 備蓄後一定期間を経過した精米については、非主食として販売。(大規模災害が発生した場合は、本来の目的どおりに被災地等に供給)

具体的なスケジュール(予定)

(備蓄用精米の切り替えの時期はイメージであり、今後変更となる可能性がある。)



食味等分析試験及び販売実証の結果概要

○ 食味等分析試験の結果概要

備蓄期間	理化学分析			食味評価	
	水分(%)	脂肪酸度(mg)	濁度(ppm)	基準米との比較による総合評価	主観による絶対評価
基準米	14.3	3.0	12.0	-	-
2ヶ月	14.6	3.2	11.4	-0.1	3.5
4ヶ月	14.3	4.8	14.5	-0.6	2.7
6ヶ月	14.1	5.7	14.6	-0.3	2.8
8ヶ月	14.2	5.8	14.3	-0.8	2.4
10ヶ月	14.5	7.9	15.9	-1.0	2.4
12ヶ月	14.5	8.6	11.8	-1.1	2.2
14ヶ月	14.3	8.0	17.1	-0.7	2.2

※1 食味等分析試験(理化学分析及び食味評価)は、分析機関に委託(食味評価(官能試験)は20名のパネリストにより実施)。
 ※2 精米備蓄を実施した産地品種銘柄の平均(ただし、胚芽の残存が多く見られ、無洗米形態での備蓄可能期間を調べる本試験の試料に適さなかった産地品種銘柄を除く)。
 ※3 備蓄用精米(無洗米)は、温度15℃以下、湿度60~65%(目安)の低温倉庫で保管。
 (参考) ・水分は、農産物規格規程における精米(完全精米・一等)の基準が15.0%以下とされている。
 ・脂肪酸度は、貯蔵期間の経過に伴い上昇することが知られている(特段の基準はなし)。
 ・無洗米の濁度は、28ppm以下が望ましいとされている(全国無洗米協会の濁度基準による)。
 ・基準米との比較による総合評価は、基準米を0として、±4の9段階で評価(“-1”は「わずかに不良」)。
 ・主観による絶対評価は、「5. 非常においしく食べられる」、「4. おいしく食べられる」、「3. 普通に食べられる」、「2. 少し劣るが食べられる」、「1. 受け入れられない」の5段階で評価。

⇒ 低温倉庫(15℃以下)で保管した場合、14ヶ月経過後の精米でも、食味は大幅には低下しない。

○ 販売(非主食用への販売)の概要

販売開始	備蓄期間	提示数量(t)	申込数量(t)	落札数量(t)	販売期間
25年3月	2ヶ月	102	1,900	102	1ヶ月
25年5月	4ヶ月	99	585	99	1ヶ月
25年7月	6ヶ月	102	345	102	1ヶ月
	8ヶ月	100	202	100	4ヶ月
26年1月	10ヶ月	101	203	101	4ヶ月
	12ヶ月	202	405	202	4ヶ月
26年3月	8ヶ月	100	350	100	2ヶ月
26年9月	8ヶ月	252	1,971	411	12ヶ月
27年2月	13ヶ月	159			7ヶ月
	11ヶ月	101	354	101	7ヶ月
27年5月	8ヶ月	258	1,129	258	4ヶ月
27年10月	8ヶ月	256	1,673	211	(残45)
28年2月	9ヶ月	256	1,470	256	5ヶ月

⇒ 販売時期の需給・価格によって、応札意欲や応札価格が影響されている。

※水田活用の直接支払交付金の支援対象面積

作物別作付面積(二毛作※含む延べ面積)

対象作物	作付面積(万ha)
水稻作付面積	162.3
主食用米	140.6
加工用米	4.7
米粉用米	0.4
飼料用米	8.0
WCS用稲	3.8
備蓄用米	4.5
輸出用米等	0.3
麦	17.1
大豆	11.8
飼料作物(飼料用米・WCS用稲を除く)	10.3
そば・なたね	3.7
その他(野菜、不作付地等)	39.9
田本地面積	231.0

注1:田本地面積、水稻作付面積、麦、大豆、そばは「耕地及び作付面積統計」

注2:主食用米は「作物統計」

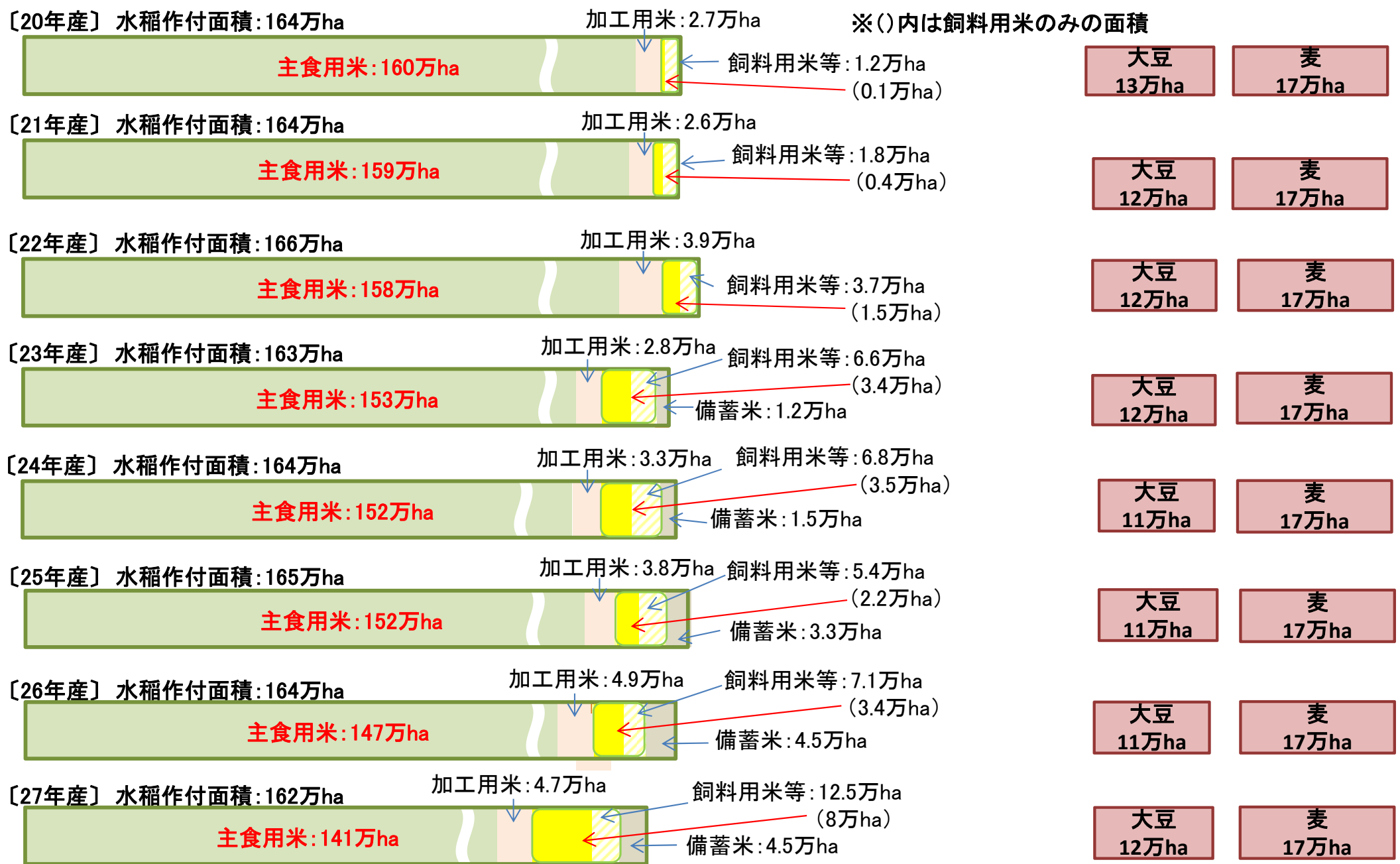
注3:加工用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲、備蓄用米、輸出用米等は「新規需要米の用途別取組状況」

注4:飼料作物、なたねは「水田活用の直接支払交付金支払い実績」

注5:ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある

24 水田の利用状況の推移

○ 平成20年以降、主食用米の需要減少分は、飼料用米等の拡大で対応されている。こうした取組を進めることで、水田がフルに活用され、生産者等の主体的経営判断による需要に応じた米生産の推進が期待される。



25 全国の需給調整の取組状況の推移(平成16年産～27年産)

年産	生産数量目標 (自主的取組参考値) ① 万トン	主食用米 生産量 ② 万トン	超過数量 ②－① 万トン	①を面積換算 したもの ③ 万ha	主食用米 作付面積 ④ 万ha	超過作付面積 (对自主的取組参考値) ④－③ 万ha	作況 指数 ⑤
16	857	860	2	163.3	165.8	2.5	98
17	851	893	42	161.5	165.2	3.7	101
18	833	840	7	157.5	164.3	6.8	96
19	828	854	26	156.6	163.7	7.1	99
20	815	865	50	154.2	159.6	5.4	102
21	815	831	16	154.3	159.2	4.9	98
22	813	824	11	153.9	158.0	4.1	98
23	795	814	19	150.4	152.6	2.2	101
24	793	821	28	150.0	152.4	2.4	102
25	791	818	27	149.5	152.2	2.7	102
26	765	788	23	144.6	147.4	2.8	101
27	注5 751 (739)	744	▲ 7	141.9 (139.7)	140.6	▲ 1.3 (0.9)	100

注1:②の主食用米生産量(23年産以前)は、統計部公表の水稲収穫量から加工用米等の出荷実績数量を控除した数値。

2:④の主食用米作付面積(23年産以前)は、統計部公表の水稲作付面積から加工用米等の作付面積を控除した数値。

3:②、④及び⑤の24年産以降の数値は、それぞれ統計部公表の12月の収穫量(主食用)、主食用作付面積及び作況指数。

4:ラウンドの関係で内訳が一致しない場合がある。

5:27年産から、生産数量目標と併せ、自主的取組参考値を提示することとなったため、これを括弧書きで併記。

26 生産数量目標の都道府県間調整の推移

- 米の生産数量目標については、県間で生産数量目標を調整しあう都道府県間調整が行われている。
(受け手県は生産数量目標が増加し、出し手県は減少)
- 特に、23年産米については、東日本大震災の影響から、被災県とその他の都道府県との間で多くの調整が行われたところ。なお、震災を要因とする県間調整については、今後の生産数量目標の増加・削減要因としないことを前提として実施されている。

(単位:トン)

年産	調整数量 (面積換算値)	出し手県		受け手県	
		県名	数量	県名	数量
20年産	7,590 (1,400ha)	佐賀県	7,590	新潟県	3,510
				福島県	1,480
				青森県	911
				茨城県	620
				石川県	569
				宮城県	450
21年産	9,520 (1,800ha)	佐賀県	8,580	新潟県	5,040
				大分県	690
				石川県	1,673
				長野県	1,579
				山形県	931
22年産	2,670 (500ha)	佐賀県	2,655	新潟県	2,655
				岐阜県	15

年産	調整数量 (面積換算値)	出し手県			受け手県				
		県名	数量	うち震災関連	県名	数量	うち震災関連		
23年産	34,272 (6,400ha)	福島県	23,582	23,582	新潟県	14,054	12,884		
		宮城県	9,512	9,512	秋田県	9,138	9,138		
		佐賀県	1,100	-	青森県	3,380	3,380		
		山形県	70	-	山形県	2,492	2,492		
		青森県	8	-	石川県	1,665	1,665		
					北海道	1,500	1,500		
					長野県	907	907		
					富山県	603	603		
					兵庫県	200	200		
					山梨県	100	100		
24年産	7,601 (1,400ha)	宮城県	4,415	4,415	新潟県	6,413	6,341		
		福島県	3,114	3,114	秋田県	1,034	1,034		
		山形県	72	-	山形県	144	144		
		富山県	1	-	福井県	10	10		
					石川県	1	-		
		25年産	8,115 (1,600ha)	福島県	4,822	4,822	新潟県	6,758	5,714
				宮城県	2,237	2,237	秋田県	794	794
				山口県	990	-	石川県	448	448
				山形県	53	-	千葉県	53	53
				東京都	8	-	山形県	50	50
石川県	4			-	青森県	8	-		
					富山県	4	-		
26年産	5,381 (1,100ha)			福島県	5,248	5,248	新潟県	4,153	4,020
				山口県	82	-	秋田県	895	895
				山形県	51	-	長野県	300	300
27年産	5,962 (1,200ha)	福島県	5,092	5,092	新潟県	5,530	4,960		
		山口県	484	-	石川県	300	-		
		宮城県	350	-	山形県	132	132		
		山形県	36	-					

注1: 県間調整については、国が仲介して行った県間調整のほか、方針作成者間調整のうち県をまたいで調整したものも含む。
 注2: ()の面積換算値は、出し手県の平年収量で換算した面積(100ha単位)。
 注3: ラウンドの関係で出し手県の数量と受け手県の数量は一致しない。

27 平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等

都道府県	27年産生産数量目標 のシェア(注1)	28年産生産数量目標		28年産自主的取組参考値	
			面積換算値		面積換算値
全国計	100%	743万トン	140万ha	735万トン	139万ha
北海道	547,330 / 7,510,000	541,500トン	100,464ha	535,669トン	99,382ha
青森	242,460 / 7,510,000	239,877トン	41,075ha	237,294トン	40,633ha
岩手	271,210 / 7,510,000	268,321トン	50,342ha	265,432トン	49,800ha
宮城	348,620 / 7,510,000	344,906トン	65,077ha	341,193トン	64,376ha
秋田	417,540 / 7,510,000	413,092トン	72,093ha	408,644トン	71,317ha
山形	344,500 / 7,510,000	340,830トン	57,282ha	337,160トン	56,666ha
福島	339,550 / 7,510,000	335,933トン	61,980ha	332,316トン	61,313ha
茨城	337,370 / 7,510,000	333,776トン	63,698ha	330,182トン	63,012ha
栃木	298,690 / 7,510,000	295,508トン	54,724ha	292,326トン	54,134ha
群馬	75,670 / 7,510,000	74,864トン	15,155ha	74,058トン	14,991ha
埼玉	151,270 / 7,510,000	149,659トン	30,543ha	148,047トン	30,214ha
千葉	246,490 / 7,510,000	243,864トン	45,582ha	241,239トン	45,091ha
東京	770 / 7,510,000	762トン	185ha	754トン	183ha
神奈川	14,400 / 7,510,000	14,247トン	2,890ha	14,093トン	2,859ha
新潟	521,290 / 7,510,000	515,737トン	95,507ha	510,184トン	94,479ha
富山	185,650 / 7,510,000	183,672トン	34,203ha	181,695トン	33,835ha
石川	123,630 / 7,510,000	122,313トン	23,567ha	120,996トン	23,313ha
福井	125,460 / 7,510,000	124,124トン	23,916ha	122,787トン	23,658ha
山梨	27,430 / 7,510,000	27,138トン	4,961ha	26,846トン	4,908ha
長野	194,000 / 7,510,000	191,933トン	30,907ha	189,867トン	30,574ha
岐阜	111,270 / 7,510,000	110,085トン	22,558ha	108,899トン	22,315ha
静岡	82,920 / 7,510,000	82,037トン	15,746ha	81,153トン	15,576ha
愛知	134,970 / 7,510,000	133,532トン	26,338ha	132,094トン	26,054ha
三重	143,510 / 7,510,000	141,981トン	28,396ha	140,453トン	28,091ha

都道府県	27年産生産数量目標 のシェア(注1)	28年産生産数量目標		28年産自主的取組参考値	
			面積換算値		面積換算値
滋賀	160,450 / 7,510,000	158,741トン	30,645ha	157,032トン	30,315ha
京都	75,930 / 7,510,000	75,121トン	14,701ha	74,312トン	14,542ha
大阪	26,220 / 7,510,000	25,941トン	5,241ha	25,661トン	5,184ha
兵庫	180,440 / 7,510,000	178,518トン	35,420ha	176,596トン	35,039ha
奈良	41,690 / 7,510,000	41,246トン	8,040ha	40,802トン	7,954ha
和歌山	34,850 / 7,510,000	34,479トン	6,965ha	34,108トン	6,891ha
鳥取	66,110 / 7,510,000	65,406トン	12,725ha	64,702トン	12,588ha
島根	90,000 / 7,510,000	89,041トン	17,493ha	88,083トン	17,305ha
岡山	158,550 / 7,510,000	156,861トン	29,821ha	155,172トン	29,500ha
広島	129,970 / 7,510,000	128,585トン	24,586ha	127,201トン	24,321ha
山口	108,760 / 7,510,000	107,601トン	21,349ha	106,443トン	21,120ha
徳島	58,540 / 7,510,000	57,916トン	12,219ha	57,293トン	12,087ha
香川	70,240 / 7,510,000	69,492トン	13,926ha	68,744トン	13,776ha
愛媛	73,920 / 7,510,000	73,133トン	14,685ha	72,345トン	14,527ha
高知	50,070 / 7,510,000	49,537トン	10,769ha	49,003トン	10,653ha
福岡	182,470 / 7,510,000	180,526トン	36,178ha	178,582トン	35,788ha
佐賀	138,420 / 7,510,000	136,945トン	26,386ha	135,471トン	26,102ha
長崎	62,850 / 7,510,000	62,180トン	12,981ha	61,511トン	12,842ha
熊本	189,310 / 7,510,000	187,293トン	36,368ha	185,277トン	35,976ha
大分	117,690 / 7,510,000	116,436トン	23,148ha	115,183トン	22,899ha
宮崎	93,600 / 7,510,000	92,603トン	18,632ha	91,606トン	18,432ha
鹿児島	111,070 / 7,510,000	109,887トン	22,751ha	108,704トン	22,506ha
沖縄	2,860 / 7,510,000	2,830トン	916ha	2,799トン	906ha

注1：米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（平成26年11月）において、平成27年産米の都道府県別のシェアを固定し、当該シェアで按分して平成28年産米の都道府県別の生産数量目標及び自主的取組参考値とする旨を公表済み。

注2：端数処理の結果、合計値は一致しない。

注3：各都道府県の生産数量目標は、県間調整前の数量である。

28 27年産米の作付動向（10月15日現在）

- 平成27年産については、主食用米から飼料用米のみならず、麦・大豆、WCS（稲発酵粗飼料）等への転換が進み、前年比で +6.2万ha転換。
- この結果、27年産米の主食用米の作付面積は140.6万haとなり、生産数量目標141.9万haを1.3万ha下回り、超過作付は生産数量目標の配分を開始して以来初めて解消された。

○主食用米及び戦略作物の作付面積の動向

		主食用米			戦略作物等（基幹作物のみ）				
		作付面積 ①	生産数量目標 ②	超過作付 ①－②	飼料用米	WCS	麦	大豆	その他
26年産	(万ha)	147.4	144.6	2.8	3.4	3.1	9.8	8.0	19.8
27年産	(万ha)	140.6	141.9	▲ 1.3	8.0	3.8	9.9	8.7	19.8
差 (27-26)	(万ha)	▲ 6.8	▲ 2.7	▲ 4.1	4.6	0.8	0.2	0.6	▲ 0.0

主食用から作付転換

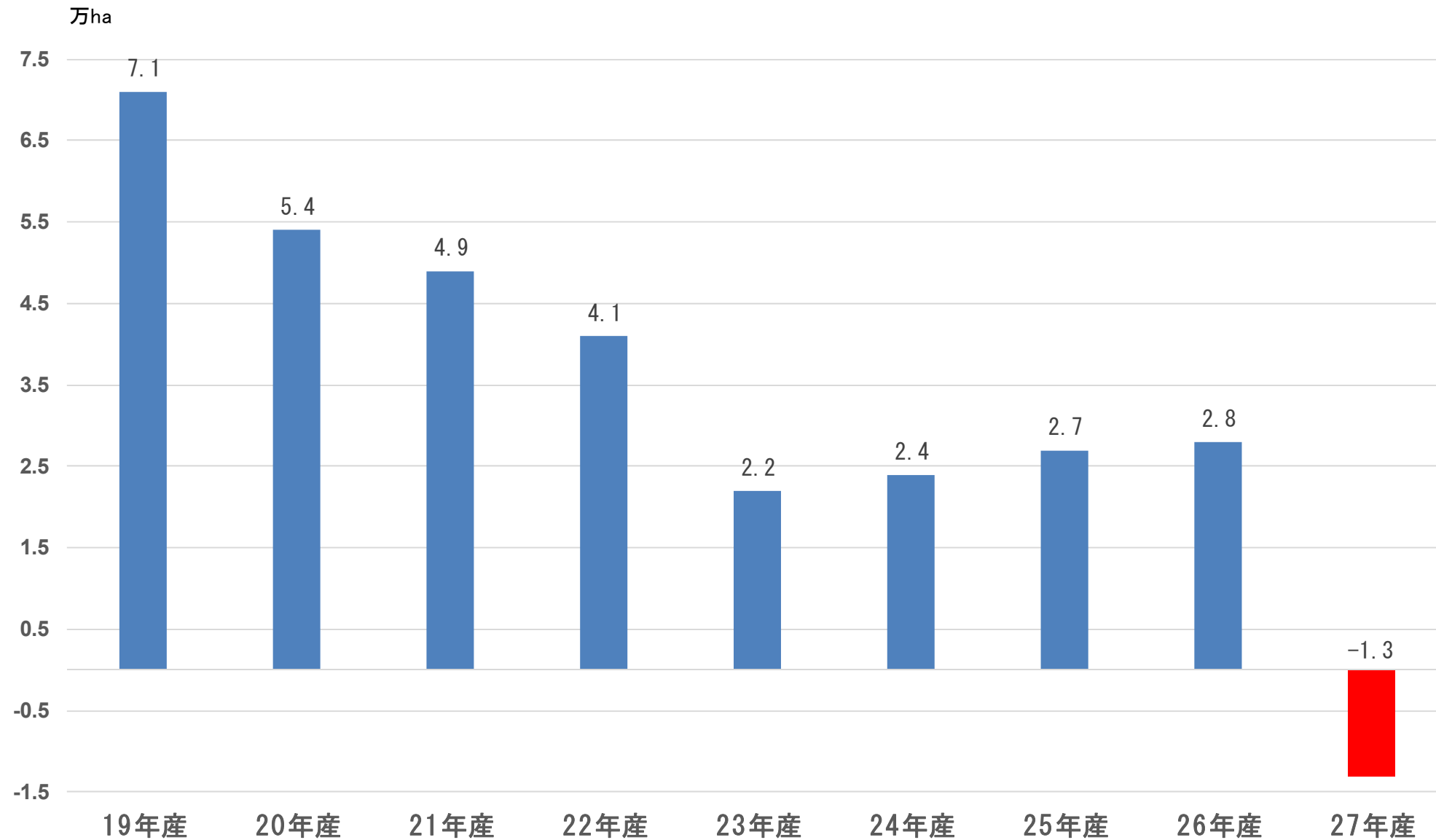
前年比6.2万ha増（米換算で33万t相当）＝ 飼料用米24万t＋麦・大豆等9万t
（※ 530kg/10aで換算）

⇒ 飼料用米51万tの取組に相当
（27年産増加分（33万t）＋26年産（18万t））

注1：ラウンドにより差が異なる場合がある。

注2：「その他」の内訳は、加工用米、飼料用米及びWCS以外の新規需要米、備蓄米、飼料作物、そば、なたね

29 27年産米の超過作付の動向



上段: 主食用米作付面積(万ha)
下段: 生産数量目標(万ha)

163.7	159.6	159.2	158.0	152.6	152.4	152.2	147.4	140.6
156.6	154.2	154.3	153.9	150.4	150.0	149.5	144.6	141.9

30 都道府県別の超過作付の状況(10月15日現在)

○ 平成27年産の超過作付面積は▲1.3万haで、主食用米の作付面積が生産数量目標を下回ったものは36都道府県、自主的取組参考値まで下回ったものは28都道府県。

都道府県	26年産 超過作付 (ha)	27年産		
		主食用米 作付面積	27年産超過作付の 状況(ha)	
			対生産数量 目標	対自主的 取組参考値
北海道	▲ 68	100,100	▲ 1,700	▲ 190
青森県	▲ 159	37,300	▲ 4,300	▲ 3,550
岩手県	▲ 499	48,100	▲ 2,800	▲ 1,970
宮城県	▲ 472	63,700	▲ 2,000	▲ 1,030
秋田県	224	71,200	▲ 1,700	▲ 500
山形県	711	57,700	▲ 300	630
福島県	▲ 1,286	61,500	▲ 100	▲ 720
茨城県	6,847	68,400	3,800	4,800
栃木県	969	54,100	▲ 1,200	▲ 330
群馬県	262	14,400	▲ 900	▲ 670
埼玉県	2,718	31,700	800	1,320
千葉県	11,538	55,200	9,100	9,860
東京都	▲ 31	156	▲ 34	▲ 24
神奈川県	236	3,130	210	260
新潟県	4,982	102,400	4,600	7,410
富山県	▲ 163	34,200	▲ 400	180
石川県	▲ 22	23,600	▲ 300	160
福井県	▲ 107	23,900	▲ 300	110
山梨県	▲ 4	4,980	▲ 30	50
長野県	1,188	32,200	1,000	1,460
岐阜県	130	22,100	▲ 700	▲ 340
静岡県	540	16,100	200	440
愛知県	1,547	27,200	700	1,000
三重県	▲ 295	27,700	▲ 1,000	▲ 540

都道府県	26年産 超過作付 (ha)	27年産		
		主食用米 作付面積	27年産超過作付の 状況(ha)	
			対生産数量 目標	対自主的 取組参考値
滋賀県	▲ 286	30,600	▲ 400	120
京都府	▲ 27	14,400	▲ 500	▲ 220
大阪府	244	5,440	140	230
兵庫県	374	35,700	▲ 100	470
奈良県	877	8,850	720	850
和歌山県	137	6,900	▲ 150	▲ 30
鳥取県	▲ 55	12,400	▲ 500	▲ 260
島根県	▲ 3	17,500	▲ 200	100
岡山県	665	29,600	▲ 500	▲ 60
広島県	▲ 99	24,000	▲ 800	▲ 450
山口県	▲ 439	20,500	▲ 1,000	▲ 730
徳島県	472	11,700	▲ 700	▲ 450
香川県	▲ 91	13,500	▲ 600	▲ 350
愛媛県	▲ 70	14,600	▲ 200	▲ 10
高知県	1,800	11,900	1,000	1,190
福岡県	▲ 74	35,900	▲ 700	▲ 80
佐賀県	▲ 521	25,000	▲ 1,500	▲ 1,090
長崎県	46	12,500	▲ 700	▲ 440
熊本県	▲ 808	34,300	▲ 2,500	▲ 1,870
大分県	▲ 683	21,700	▲ 1,700	▲ 1,320
宮崎県	▲ 1,587	16,100	▲ 2,700	▲ 2,430
鹿児島県	▲ 901	20,900	▲ 2,100	▲ 1,730
沖縄県	▲ 88	788	▲ 142	▲ 122
合計	2.8万	140.6万	▲ 1.3万	0.9万

31 平成27年産米の都道府県別需給調整の取組状況

【27年産】

都道府県名	生産数量 目標	自主的取組 参考値	主食用米 生産量	超過数量	①を面積換算 したもの	②を面積換算 したもの	主食用米 作付面積	超過作付 面積 (対生産数量目標)	超過作付 面積 (対自主的取組参考 値)	作況 指数
	①	②	③	③-①	④	⑤	⑥	⑥-④	⑥-⑤	⑦
	トン	トン	トン	トン	ha	ha	ha	ha	ha	
全国	751.0万	739.0万	744.2万	▲ 6.8万	141.9万	139.7万	140.6万	▲ 1.3万	0.9万	100
北海道	547,330	538,580	559,600	12,270	101,800	100,290	100,100	▲ 1,700	▲ 190	104
青森	242,460	238,580	229,800	▲ 12,660	41,600	40,850	37,300	▲ 4,300	▲ 3,550	105
岩手	271,210	266,880	269,400	▲ 1,810	50,900	50,070	48,100	▲ 2,800	▲ 1,970	105
宮城	348,270	343,050	348,400	130	65,700	64,730	63,700	▲ 2,000	▲ 1,030	103
秋田	417,540	410,860	419,400	1,860	72,900	71,700	71,200	▲ 1,700	▲ 500	103
山形	344,596	338,990	354,300	9,704	58,000	57,070	57,700	▲ 300	630	103
福島	334,458	334,130	342,600	8,142	61,600	62,220	61,500	▲ 100	▲ 720	101
茨城	337,370	331,980	345,400	8,030	64,600	63,600	68,400	3,800	4,800	96
栃木	298,690	293,920	287,300	▲ 11,390	55,300	54,430	54,100	▲ 1,200	▲ 330	98
群馬	75,670	74,460	70,400	▲ 5,270	15,300	15,070	14,400	▲ 900	▲ 670	98
埼玉	151,270	148,850	152,200	930	30,900	30,380	31,700	800	1,320	97
千葉	246,490	242,550	297,500	51,010	46,100	45,340	55,200	9,100	9,860	101
東京	770	760	632	▲ 138	190	180	156	▲ 34	▲ 24	98
神奈川	14,400	14,170	15,200	800	2,920	2,870	3,130	210	260	96
新潟	526,820	512,960	539,600	12,780	97,800	94,990	102,400	4,600	7,410	97
富山	185,650	182,680	191,200	5,550	34,600	34,020	34,200	▲ 400	180	103
石川	123,930	121,650	123,200	▲ 730	23,900	23,440	23,600	▲ 300	160	101
福井	125,460	123,460	123,800	▲ 1,660	24,200	23,790	23,900	▲ 300	110	99
山梨	27,430	26,990	26,800	▲ 630	5,010	4,930	4,980	▲ 30	50	98
長野	194,000	190,900	194,500	500	31,200	30,740	32,200	1,000	1,460	97
岐阜	111,270	109,490	106,300	▲ 4,970	22,800	22,440	22,100	▲ 700	▲ 340	99
静岡	82,920	81,600	81,000	▲ 1,920	15,900	15,660	16,100	200	440	96
愛知	134,855	132,820	136,800	1,945	26,500	26,200	27,200	700	1,000	99
三重	143,510	141,210	135,700	▲ 7,810	28,700	28,240	27,700	▲ 1,000	▲ 540	98

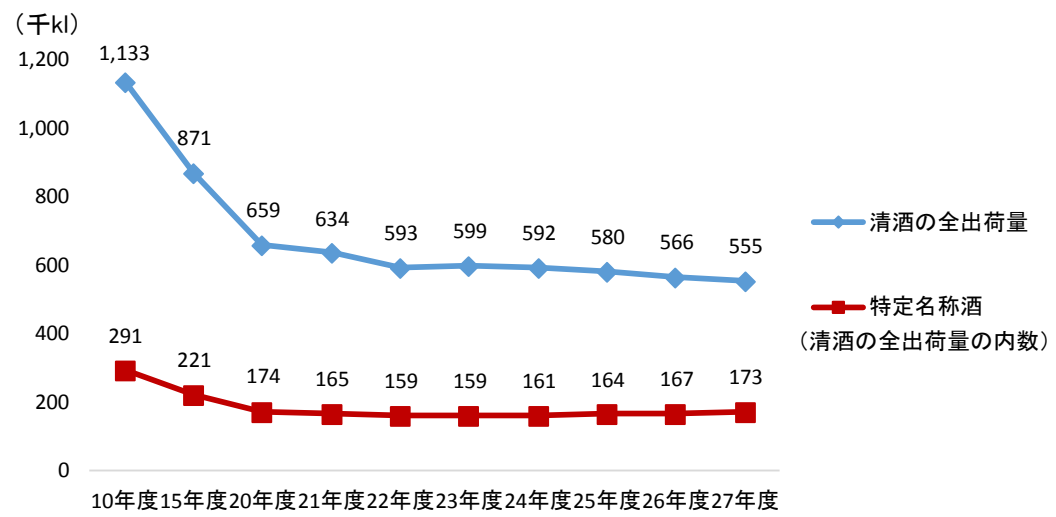
都道府県名	生産数量 目標	自主的取組 参考値	主食用米 生産量	超過数量	①を面積換算 したもの	②を面積換算 したもの	主食用米 作付面積	超過作付 面積 (対生産数量目標)	超過作付 面積 (対自主的取組参考 値)	作況 指数
	①	②	③	③-①	④	⑤	⑥	⑥-④	⑥-⑤	⑦
	トン	トン	トン	トン	ha	ha	ha	ha	ha	
滋賀	160,450	157,880	158,500	▲ 1,950	31,000	30,480	30,600	▲ 400	120	100
京都	75,930	74,720	73,400	▲ 2,530	14,900	14,620	14,400	▲ 500	▲ 220	100
大阪	26,220	25,800	26,900	680	5,300	5,210	5,440	140	230	100
兵庫	180,440	177,560	178,900	▲ 1,540	35,800	35,230	35,700	▲ 100	470	99
奈良	41,690	41,030	45,600	3,910	8,130	8,000	8,850	720	850	100
和歌山	34,850	34,290	34,400	▲ 450	7,050	6,930	6,900	▲ 150	▲ 30	101
鳥取	66,110	65,060	63,500	▲ 2,610	12,900	12,660	12,400	▲ 500	▲ 260	99
島根	90,000	88,560	88,000	▲ 2,000	17,700	17,400	17,500	▲ 200	100	98
岡山	158,550	156,020	149,500	▲ 9,050	30,100	29,660	29,600	▲ 500	▲ 60	96
広島	129,970	127,890	121,700	▲ 8,270	24,800	24,450	24,000	▲ 800	▲ 450	96
山口	108,276	107,020	100,700	▲ 7,576	21,500	21,230	20,500	▲ 1,000	▲ 730	97
徳島	58,540	57,600	53,500	▲ 5,040	12,400	12,150	11,700	▲ 700	▲ 450	97
香川	70,240	69,120	63,500	▲ 6,740	14,100	13,850	13,500	▲ 600	▲ 350	94
愛媛	73,920	72,740	71,200	▲ 2,720	14,800	14,610	14,600	▲ 200	▲ 10	98
高知	50,070	49,270	52,800	2,730	10,900	10,710	11,900	1,000	1,190	96
福岡	182,470	179,550	172,300	▲ 10,170	36,600	35,980	35,900	▲ 700	▲ 80	95
佐賀	138,420	136,210	128,300	▲ 10,120	26,500	26,090	25,000	▲ 1,500	▲ 1,090	99
長崎	62,850	61,840	59,900	▲ 2,950	13,200	12,940	12,500	▲ 700	▲ 440	100
熊本	189,310	186,290	171,500	▲ 17,810	36,800	36,170	34,300	▲ 2,500	▲ 1,870	97
大分	117,690	115,810	103,700	▲ 13,990	23,400	23,020	21,700	▲ 1,700	▲ 1,320	95
宮崎	93,600	92,100	74,700	▲ 18,900	18,800	18,530	16,100	▲ 2,700	▲ 2,430	93
鹿児島	111,070	109,290	95,700	▲ 15,370	23,000	22,630	20,900	▲ 2,100	▲ 1,730	95
沖縄	2,860	2,820	2,270	▲ 590	930	910	788	▲ 142	▲ 122	94

注1:①は県間調整後の数値。
 2:③、⑥及び⑦は、それぞれ平成27年12月4日統計部公表の収穫量(主食用)、主食用作付面積及び作況指数。
 3:④の都道府県欄は、原数が7桁以上の場合は3桁目を、6桁及び5桁の場合は2桁目を、4桁の場合は1桁目を四捨五入した値。
 4:ラウンドの関係で内訳と合計が一致しない場合がある。

32 酒造好適米の需要に応じた生産拡大について

- 近年、日本酒全体の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の出荷量が堅調に推移していることや、輸出も増加傾向にあることから、酒造好適米の需要は高まっている。
- 農林水産省では、近年の特定名称酒の需要増加に応じた酒造好適米の生産拡大に向けて、平成26年産から酒造好適米の使用増加分について、生産数量目標の枠外での生産を可能とする運用見直し等を行ったところ。
- 26年産酒造好適米においては、概ね酒造メーカーの希望に見合った生産が行われたが、27年産では、26年産主食用米の取引価格が大幅に低下したこと等により、平成27年産酒造好適米の作付けが急増したことや、作柄が良好であったこと等から供給過剰となり、酒造好適米の需給は緩和している状況にある。
- 一方で、今後、日本酒の輸出拡大等が見込まれることから、需要者サイドと生産者サイドとの情報交換会を開催し酒造好適米の需要に見合った安定的な生産体制の確立に向けた取組を促進。

○ 日本酒出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年度は暦年。
 注：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

○ 酒造好適米の生産状況

(単位: 千ト)

	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産
酒造好適米合計	71	65	65	68	76	(4)	(7)
うち山田錦	21	19	20	21	23	30	39
うち五百万石	20	19	19	19	21	23	26

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）
 注1：27年産は平成28年3月31日現在の速報値。
 注2：（ ）書きは運用改善に伴う増産分で内数。

○ 原料米の使用状況

(単位: 千ト)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産
原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248
酒造好適米	99	75	77	71	65	66	68	76	90
主食用米	165	92	60	54	43	50	57	34	27
加工用米	86	89	74	72	77	71	79	95	105
その他	55	59	50	49	47	52	37	38	26

注1：原料米全体の使用量は国税庁公表値。
 注2：各年産ごとの内訳は日本酒造組合中央会による推計値。